

平成30年度 【 学園研究費助成金< B > 】 研究成果報告書

学部名 文化情報学部

フリガナ ヒガチ ケンイチロウ
氏名 樋口 謙一郎

研究期間 平成30年度

研究課題名 「シャープパワー」脅威論と対外言語教育政策の展望

研究組織

	氏名	学部	職位
研究代表者	樋口 謙一郎	文化情報	准教授
研究分担者			
研究分担者			

1. 本研究開始の背景や目的等 (200字～300字程度で記述)

本研究では、いわゆる「シャープパワー」脅威論が、対外言語教育政策（特定国家による自国語の海外普及）にもたらす影響および新たな課題について、北米などにおける実態に即して再検討を行っていく。シャープパワーの典型としてしばしば提示されるのは、中国政府による対外的言語教育機関「孔子学院」の世界的拡大である。歴史的に見れば、対外言語教育政策が文化プロパガンダ的性格を帯びるのは、中国（あるいは「権威主義国家」）の例にとどまるものではないが、今後の展開次第で、この脅威論の解釈幅や支持が拡大することも考えられる。本研究は、シャープパワー脅威論が焦点化した現状にあつて、対外言語教育政策の展望がいかなるものになるかを考察する基礎の確立を目指すものである。

2. 研究方法等 (300字程度で記述)

- ・基礎的な知識集約と先行研究のレビューのため、シャープパワー脅威論に関する基本文献（日・英・中・韓など）の収集・分析を行い、対外言語教育政策をめぐる議論の歴史的変化について、文献上での確認・検討を行う。
- ・北米大都市の外国語学習環境・施策について、特に対外言語教育政策の文脈に関して資料収集、ヒアリングを行う。
- ・近年進めている「対外言語普及研究における『現地主義』アプローチ」の研究成果も活用しつつ、シャープパワー脅威論に関する諸課題を分析する。

3. 研究成果の概要 (600字～800字程度で記述)

本研究では、いわゆるシャープパワー脅威論が、対外言語教育政策（特定国家による自国語の海外普及）にもたらす影響および新たな課題について、特に北米などにおける実態に即して再検討を行った。

中国およびロシアのシャープパワーに関する資料は思いのほか豊富で、「全米民主主義基金」（NED）などの機関のレポートやカンファレンスの実録映像なども参照することが可能であった。

ただ、シャープパワーと対外言語教育政策との関係に絞って検討してみると、それについての先行研究状況は、管見の限り、本研究の開始時点から本報告書執筆時点まで、目を見張るような進展はみられないように思われる。また、シャープパワーは「民主国家を分断したり弱体化させたりする鋭意な（シャープ）なパワー」というように通常捉えられるが、その昨今における現出の形態は多様であり、中国の孔子学院のような対外言語教育政策も、シャープパワーの重要な一つに数えられるが全体ではない。

そこで本研究においては、中国の孔子学院との比較事例として、韓国の対外言語教育機関である世宗学堂についても考察することにより、対外言語教育政策のシャープパワーとしての性格の再検討も試みた。特に、代表者が近年進めている対外言語政策研究の「現地主義」アプローチに基づき、シャープパワー脅威論に関する諸課題を整理、分析することに努めた。

なお、ヒアリング調査が想定よりも不足したので、その点は今後の課題にしたい。

4. キーワード (本研究のキーワードを1以上8以内で記載)

①シャープパワー	②対外言語教育政策	③	④
⑤	⑥	⑦	⑧

5. 研究成果及び今後の展望 (公開した研究成果、今後の研究成果公開予定・方法等について記載すること。既に公開したものについては次の通り記載すること。著書は、著者名、書名、頁数、発行年月日、出版社名を記載。論文は、著書名、題名、掲載誌名、発行年、巻・号・頁を記載。学会発表は発表者名、発表標題、学会名、発表年月日を記載。著者名、発表者名が多い場合には主な者を記載し、他〇名等で省略可。発表数が多い場合には代表的なもののみ数件を記載。)

本研究の成果は論文や国際学会発表などにより公表していく。また、文化情報学部の授業（「国際関係論」「グローバル社会論」など）で関連テーマを扱うべく準備を進めている。